

第2回京田辺市総合計画審議会 議事録（要旨）

会議名	第2回京田辺市総合計画審議会
日 時	平成30年8月23日（木）午後2時から4時まで
場 所	京田辺市庁舎5階 議会全員協議会室
内 容	1 開 会 2 会長あいさつ 3 市民アンケート・中学生アンケート結果の報告 4 将来人口推計の報告 5 基本構想の検討 (1) 市の概況について (2) 目指すまちの姿（都市像）について (3) 将来人口について (4) 将来都市構造について 6 分野別の現況と課題の報告 7 まちづくり市民ワークショップ開催の報告 8 副市長あいさつ 9 閉 会
出席者	【委員】 谷口会長、野田副会長、米田委員、中山委員、青木委員、倉橋委員、角丸委員、潮委員、白川委員、鈴木(俊)委員、田邊委員、寺西委員、中川委員、畠山委員、藤田委員、柳田委員、山本委員、河内委員、多富委員、宮寄委員、有坂委員 【市側】 鞍掛副市長、西川理事、礪谷公営企業管理者職務代理者（上下水道部長）、越後危機管理監、西川こども政策監、村上総務部長、村田市民部長、長田健康福祉部長、古川建設部長、瀬野建設部技監、森田経済環境部長、白井教育部長、脇本教育指導監、井辻消防長、池田企画政策部副部長 他
傍聴者	1人

1 開会

事務局より開会にあたっての説明

2 会長あいさつ

皆さん、改めましてこんにちは。谷口でございます。第2回の審議会ということでございますが、お忙しい中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

今日から総合計画の基本構想の審議に入ることですのでございます。基本構想の中でも全体的な大きな方向を決める会議でございますので、皆様方の忌憚のないご意見をいただきまして、活発な審議会になるようにしたいと思っております。

時間配分がありますが、今日はアンケート結果でありますとか、都市像、都市の構造に関すること、盛りだくさんの内容となっておりますので、皆様方のご協力を得まして審議を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3 市民アンケート・中学生アンケート結果の報告

4 将来人口推計の報告

5 基本構想の検討

6 分野別の現況と課題の報告

【会長】 それでは議事次第に従いまして早速審議に入りたいと思います。

前回の第1回審議会では、第4次京田辺市総合計画策定方針とアンケート調査などにつきまして審議いただきました。今回は、アンケート結果や将来人口推計についての報告があります。次に、基本構想の検討ということで、目指すまちの姿として都市像や将来都市構造などについて審議してまいりたいと思います。

まず事務局から全部の資料について説明いただきまして、その後、審議をしたいと思います。

<配付資料に基づき事務局から説明>

- ・市民・中学生アンケート結果に関する説明資料（資料1）
- ・将来人口推計に関する説明資料（資料2）
- ・第4次京田辺市総合計画検討資料（資料3）
- ・分野別の現況と課題説明資料（資料4）

【会長】 まず資料1のアンケート調査につきましてご質問、あるいはご意見はありますか。

【副会長】 アンケートの結果から、京田辺市の魅力として、「京都、大阪、奈良への交通の便がよい」というのが非常に高い割合だったということと、一方で「自然環境に恵まれている」ということについても高い割合だったということ踏まえて考えると、交通の便がよいけれども、大阪や京都に住まずに京田辺に住むということなので、これは裏を返すと自然環境がよいところに住むという選択をするということ補完する話かと思う。

したがって、この割合が高いという回答から、これまで京田辺市が目指してきた都市像（「緑豊かで健康な文化田園都市」）というのは市民の感覚と非常に近いものではないか、これは明らかなことではないかと思った。

もう1つは、一方で今後の施策の優先順位をどうされていくのかという部分と深く関わってくるが、例えば市民アンケートで言うと、京田辺市がめざすべきまちの姿として、44.6%が「福祉の充実したまち」、一方で中学生にとってみると、すなわち次代を担う若い方々については、もう少し違ったところに関心が高くて、福祉以外のところに関心が高いことが明らかになっていると思う。さらには子育て世代については子育て支援に関する要望が強いことから考えると、今後何を重点化していくのかというのは、私個人は次代を担う若い方々が住みやすいまちを目指すというのが1つの回答ではないかと思う。

【会長】 事務局から何かありますか。

【事務局】 アンケート結果から利便性と緑、自然環境というところが市民の思っておられるところと都市像とがマッチングしているということで、委員がおっしゃるとおりだと考えます。あと、安全・安心というところを非常に心配されている。

【委員】 中学生アンケート調査の結果の「京田辺市に住み続けたくない理由」のところ、「娯楽や文化などの生活の楽しみ、遊び場が多いところで暮らしたいから」と「京田辺市には就職先がないため、市外に働きに出たいと思っているから」というのがあり、私も以前から思っていたが、京田辺市に生活の楽しみや遊び場所が少ないのではないかな。例えば、バーベキュー禁止の看板があちらこちらにあるが、バーベキューは家でやってもいいが、みんながやっているところでやる楽しみもあり、みんなであそこに行ったら楽しいな、みんなが集まって何かしようとか、そういう場所があったらいいと思う。

それから、職場、就職先の話しとして、京田辺市の人が京田辺市で仕事を持っておられるのはどれぐらいなのか、その資料があったらよいと思う。例えば、久御山は工場地帯で多くの工場があるが、久御山の人はみんな久御山町の中で働いているのか。

それから、市民満足度調査における満足度（5段階評価）が3以上だからいいと説明があったが、3以上であればいいのか。4とか5にならないのかと思うが、満足度がそうなるためにはどうしたらいいのかというところをもっと考えていかないといけないのではないかな。

【事務局】 京田辺に住んでいて、職場が京田辺であれば、職住近接でアフターファイブの時間も取れるためベストだと思う。データは今手元にはないので、お調べして知らせたい。

【委員】 データはなくてもよい。もう1つ、これから京田辺のまちづくりを考えるのだから、中学生のアンケート結果を重視したらいい、ということもあるかもしれないが、年齢別に見たデータでは高齢者の割合も随分と高くなっている。私がこの先安心して生きていくためには、自分のことが自分でできなくなったときに施設に入れてほしいと思

っているが、いっぱい入れないというのでは安心してられない。保育所はずいぶんと充実できたのではないかと思うが、老人ホームはどうなのか。

【事務局】 先ほどグラフがあったが、要介護の方とか、高齢者の方が増えていくにしたがって当然ニーズも増えてくるので、追いついていかなければならないと思います。

【委員】 中学生もいつかは年を取るのですから、もっと未来を見たら老人ホームとか、そういう施設というのは大切だと思う。

【事務局】 当然、施設も大事になるが、いろいろ制約もあるので、その辺を地域の皆さんでお互いに支え合うとか地域力を高めることによって、ご近所が私を見ているということでも、安心を感じていただけるので、最近絆という言葉をよく使いますけれども、地域力を高めるような取り組みも併せてやっていく必要があると思う。

【委員】 今高齢者の福祉施設の話がされたが、私は老人の高齢者の福祉計画のほうに参加してまして、京田辺ほどよく高齢者の介護とか施設とか考えていただいているところはないと思う。ほかの市町村の方に聞いても、京田辺は進んでいるということを聞いており、充実していると思う。しかし、お互いに助け合っていくという姿勢を持っていかなければ、介護が必要になったらそこに入るというのではやっていけないと思う。そういう力を地域で養っていかなければいけない。高齢者のことはよく考えていただいているように私は感じている。

【事務局】 アンケートの中でも最後に行政と市民との関わりということで、やはり市民の方は行政だけに任せるのではなくて、市民も一緒にやっていくべきだというご意見、お考えもたくさんお持ちだという結果も出ており、市民の方と協力して高齢者の見守りというところの取り組みが重要であると考えている。

【会長】 資料2の将来人口推計について、何かご質問は。

【委員】 人口推計の資料では、市全体の人口が平成42年をピークに減少するという推計になっており、ピークの前に、同志社山手が完了、山手西が完了とある。これに続く宅地開発はどうなっているのか。例えば山手東の地域の北側に新しく物流センターができる。その間の雑木林は住宅地として駅近で一番開発しやすい。それからJR大住駅の北側も駅近で今のところ何もない。住宅には全然関係ない場所だが、今手を打って開発にかかれば42年以降も若い人に来てもらえるし、人口増も期待できるのではないかな。

特に駅近で人気の高いこの地域なので、大きく住宅建設すれば人口増がはっきりするのではないかと思う。デベロッパーで言えば京阪電鉄さんがおられるが、ここもデベロッパーとしてこの地域を開発したいという意欲も持っているのではないかと思う。加え

て、先々新幹線の駅もできる。そういった場所から見て、まだまだ大きな都市に京田辺は発展できる余地もあるのではないかと思います。今後の住宅開発はどうなっているのかということをお聞きしたい。

それから、市内3地域（北部・中部・南部）別の将来人口の推移のグラフの中で、北部地域がどんどん減っている。一方で、田辺地域の人口増加の影響によって中部地域は増加傾向と、ずっと右上がりになっている。北部が減って中部がこれだけ増える。何か自然増とは関係なしに、中部に人口を誘導するような施策を考えているのか。この辺も併せて聞きたい。

【事務局】 今後の開発計画ということで、なかなか難しい話になるが、本市は都市計画区域を設定している。その中で市街化区域とそれ以外の市街化調整区域があり、都市的な開発をするところと、それ以外のところに区分けしている。本市の場合、住宅地を新たに開発しようと思うと都市計画区域を広げるという話になってくるわけだが、そういう計画は今のところない。

というのも、国の全体の方針や京都府の都市計画に係る全体の考え方ということも踏まえて、そちらとの整合も図っていかなければいけない。国全体としては人口自体が減っており、そういうことから具体的に市街化区域を広げるというのはなかなか難しい。今後さまざまな動きがあり、どうなるかわからないが、今現在、具体的には住宅の開発の計画はない。

人口は、北部地域が減っているが、将来都市構造においてはコンパクト＋ネットワークということで、本市は過去から都市のコンパクト化ということで市街化区域も外に広げるのではなくて、一定範囲を絞って都市化を進めてきている。

今後、空き家が増加することが懸念されるが、空き家が発生したときに、そこをどううまく住み替えを図っていくか、都市の密度をいかに確保するのか。利便性を高めて密度を以前と変わらない形で維持するという取り組みを進めることによって、将来的には平成42年以降は減少局面を迎えると書いているが、急激に下がるのではなくて、これをいかに維持していくのかという取り組みが必要ではないかと考えている。

【委員】 中部はずいぶん増えているが、中部は人口増を誘導するようなことを考えているのか。ここは住宅の新しい土地開発をしなくて、現状の地域だけでこれだけ増えてきているのか。

【事務局】 中部は新しく開発を進めるから人口が増加するということではない。いわゆる社会増、転入超過という状況が続いているが、そういう状況が今後も続くだろうという計算上の推計結果で、若干緩やかに増加傾向になっている。

【委員】 中部は社会現象として増えてくるであろうという推計。そうすると、北部は今の社会現象で減っていくということ。これは何もしなかったらそうなっていくと思うが、

新幹線の駅が来る大きなときに、京都府南部のリーダーとなるべき市として、この辺の開発ができない。また府の施策との整合性と言うが、府のほうでも国のほうでも新幹線を松井山手の近く、京田辺に置くと決めたわけだから、それに沿ってこの辺の地域ももっと重点的に開発しようということを京田辺市が手を挙げれば乗ってくれるのではないかと思う。将来ぜひ考えていただきたい。また、今から住宅開発をやらないと42年までに間に合わない。今がチャンスだと思う。

【委員】 将来人口の試算に外国人は入っているのか。

【事務局】 人口推計については、平成27年に行った国勢調査に基づいて、それを基準人口として推計している。基準人口の中には外国人もカウントされている。

【委員】 現状と将来で、どのぐらい住むのかという試算はあるのか。

【事務局】 今住んでいる外国人が将来的に増えるのか減るのかは推計していない。

【委員】 外国人は必ず増える。全国的に年間17万人増加している傾向にある現状の中で、これから働き手とか、労働市場に外国人が入ってくるということを鑑みれば、これは必然的に増えていく可能性は十分あると思う。そういった観点では、これから人口に関しては外国人の構成比も1つ考え方として入れたらどうか。

【会長】 事務局から何かありますか。外国人の推計というのはなかなか難しいと思うが。

【事務局】 労働力人口が減るなかで、世間的には外国人に頼らなければいけないのではないかという話も出ている。そういう流れを聞くと、本市においても労働力が不足している部分において自然的に外国人が働いて住むことになるという状況も考えられると思う。

【会長】 資料3につきましてご質問あるいはご意見を。

【委員】 将来都市構造で市内の地域生活圏を北部地域、中部地域、南部地域と大きく3つに分けている。これからの将来都市構造を考える上においてそういう分け方をするのはよいが、例えば北部地域で中心が松井山手になると、大住地域は松井山手地域ではない。既存の地域があってこそその将来展望であるが、既存の地域の状況がどこかに飛んでしまっている。将来の話をするのだから、例えば北部地域であれば大住地域の農村地域が将来どう展開していくのかというのがどこにも出てこない。そこをどう考えているのか。

それと、分野別のところにかかってくるかもしれないが、中心部、田辺地域に行く人

が減っているというのが出ていた。私の地域には銀行も郵便局も遊ぶ場所も何もない。だから皆さん樟葉へ行ったり、久御山町のイオンモールへ行く。そこには映画館などがある。そういう民間の活力を生かすような、導入できるようなまちづくりをしなければならないと思う。それがこの中にはあまり浮かび上がってこない。その辺をどう考えているのか。

【事務局】 これまで本市は、北部、中部、南部、それぞれ3つの拠点でまちづくりをしており、北部の拠点は松井山手駅周辺、中部は京田辺、新田辺、南部はJRと近鉄の三山木、それらの拠点に都市機能を集積し、バス交通などのネットワークで北部の方は北部の拠点に行きやすいような公共交通網を確立して、また北部から中部、南部の大きな流れについては鉄軌道を利用させていただいてというまちづくりをしてきた。

これから社会が高齢化していく中では、自動車に乗れなくなった方とか、そういう方をそれぞれの拠点に移動しやすいような、一番身近なものはバス交通になると思うが、その辺を充実していく必要があると考えている。

それから、市の魅力ということで、現在、市長の一番大きな政策として、平和堂さんの向こう側へ市街地を新たに広げて京田辺の中心市街地の魅力を高めるということがある。中央公民館が古くなっているため、文化振興のために、またそれだけでなく、行政サービスも受けられるような複合型公共施設を核に備えて、周辺に新たな商業を呼んでということで今取り組みを進めている。まだ時間がかかるかと思うが、そういうまちづくりを進めている。

【事務局】 民間の活力というところについても市民アンケートであったように、民間活力を生かせというアンケート結果も出ており、これから取り組みをするにあたって、PFIとか、そういう民間の活力を生かした形での事業を今後やっていかなければいけないと思う。基本構想の下段階になるかわからないが、そういう方向性はしっかり打ち出していかなければいけないと思う。

【会長】 ほかにご質問、ご意見は。

【委員】 このまちは人口7万人程度で生産年齢人口が増えていて、ある一定までですが、市の税収も増えていて、なんて素敵な健康なまちで私は働いているのだろうか、改めてびっくりしました。というのは、私の生まれたふるさととは人口5000人で高齢者率は4割ぐらい、雪も降るし・・・。

そこで1つ疑問ですが、生産年齢人口も増え、税収も増えているのに、義務的経費が増加して、人件費と公債費でお金が要るとあるが、もう少しこの辺を具体的に説明していただきたい。

【事務局】 義務的経費が増えて財政を硬直化しているというご説明をしたが、人件費、

扶助費、公債費の中で特に、扶助費、主に福祉関係、社会福祉、児童福祉にかかるコストという部分になるが、これが増えるのが主要因と考えている。

【委員】 子育て対応の施設と人、高齢者対応の施設と人というふうに考えたらよいのか。

【事務局】 高齢者、児童福祉も含めての扶助費なので、高齢者の増加だけが原因だというわけではなく、子ども施策についても手厚い施策をしており、そういう意味で増えている。

【委員】 子どもたちとお年寄りのためにお金を使っているということか。

【事務局】 結果的に投資的経費の選択肢が狭まっているというところから、義務的経費に取られて政策的なところの部分がなかなか手を出せない形になっている。

【事務局】 税収は確かに増えているが、税収ですべてを賄えるわけではなく、国からの交付税が入っている。そういった中で、確かに市民税等は少しずつ増えているが、残念ながら支出のほうで、例えば子育て支援の伸び率、あるいは生活保護費の伸び率、これが市の税収の伸び率を上回っているという状況である。基金の残高もここ数年は少しずつ減っているという状況がある。特に去年あたりは子育て支援の関係で、いわゆる待機児童対策も関係している。

義務的経費の中には人件費もあるが、京田辺の場合は保育所もかなりまだ公が運営している部分があり、幼稚園等についても公設の幼稚園が基本ということになっており、人件費部分のウエートも高い。

【委員】 子どもたちにしっかりお金を使っているという意味では健全に減っているという感じがする。ただし、減るということはよくないから、どう心配したらいいのかという印象を持った。また、待機児童に関して、国からの助成というか、補助はないのか。

【事務局】 待機児童については基本的にまず出さないということでやってきた。去年は待機児童が出たが、今年は解消している。

私どもとしては、安倍政権以前から待機児童は出さないという大前提でこれまで公設の保育所と民間の保育所のバランスを取りながら進めてきたという状況である。

【副会長】 扶助費の内訳が児童福祉に関わって使われているというのはおかしいのでは。例えば児童扶養手当とか、そういった直接支払うものがここに入っていて、保育所を整備したりするようなお金は扶助費ではなくて、投資的経費とか別のところではないか。

【事務局】 ご指摘のように、例えば子育てに関わる経費がすべて義務的経費というよう

な、扶助費という形ではないが、京田辺の場合、公設の部分がかなり多い。

【副会長】 一般的には高齢者の福祉と障害者に関わる福祉の持ち出しというのが最近非常に増えてきているという話なので、多分、子育てに関して増えているというのはもう少し細かく見られたほうがよい気がする。

【事務局】 子育ての関係で行きますと、民間保育所の委託費はこの中に入っている。その部分が膨れ上がってくればということがある。

【会長】 ちょっと細かい話になったが、他に。

【委員】 京田辺市の概況として、ここに市においての組織目標について、達成できたところのテーマですが、ちょうど目にとまるのが C の達成困難、これがクローズアップされてしまう。何が達成困難だったのか。

【事務局】 安全で人にやさしいまちという項目の中で、C が 2 件ある。これらの 2 件については、防災広場ということで、田辺西インターに隣接する場所に防災広場を整備していこうという計画をしており、整備に着手をしようとしているが、用地取得に向けての手続きに時間がかかり、平成 29 年度は達成できなかった。平成 30 年度は粛々と進めている。

もう 1 件がハザードマップ、河川の浸水想定があるので、それに基づいてハザードマップを作る。具体的には木津川の浸水想定、また京都府の管理する河川が防賀川、天津神川、普賢寺川など 6 河川、それぞれの河川の浸水想定を市のハザードマップとして 1 枚にまとめていこうということ。既に整理しているが、浸水想定が改正になったので、それをまとめる作業だが、これについて各河川管理者の浸水想定図が平成 29 年度にすべて出揃わなかったということで、30 年度継続して実施している。

【委員】 達成困難ではなく、未達成ということですね。

【会長】 ほかに基本的な都市像、都市構造についてご意見、ご質問は。

【委員】 将来都市構造の考え方の中に表現として、国土のグランドデザイン 2050 ではコンパクト＋ネットワークとある。これは国、政府が掲げているコンパクトシティという表現で、コンパクトシティというのは国もなかなかうまくいかないという方向性を若干持っているのではないか。そういった観点でいくと、京田辺市は、コンパクトシティはもう標榜しないほうがよいのではないかと思う。

【事務局】 コンパクトシティという考え方については、国全体としては人口減少を受け

て利便性、住みよいまちに規模を縮小するという大きな方向性を打ち出されているが、本市では、この将来都市構造の考え方というのは世間で言われるコンパクトシティのはるか前からこういう考え方でまちづくりをしているので、これからもそのような考えで、引き続き進めていくという意味で説明をさせていただいた。本市では、コンパクトシティを昔から実践して今こうやって成果が上がっているという状況であり、引き続きコンパクトシティを掲げてまちづくりを進めていく考えである。

【会長】 今日が一番中心の議題である、都市像と目指すべきまちの姿、将来人口、将来の都市構造について、いろいろなご意見をいただいたが、概ね事務局から提案された都市の目指す姿で問題ないか。

大きく修正するのであればまたそういうことになるが、概ねこれで行きましょうということであれば、方向性はこういう方向で理解して了承するということでよろしいか。

〈特に意見なし〉

【会長】 特に反対の意見はないので、審議会としては、事務局案を概ね大きな方向として進めていくということで参りたいと思う。

具体的などころはいろいろご意見があり、また肉付けしていくところは第3回があるので、大きな方向性、都市像については従来からも目標として掲げている、都市構造についても資料3において示されたような拠点と軸とゾーンを中心としたバランスの取れたまちづくりを行っていくということで進めていくことにしたいと思う。

次に、資料4、分野別のところについてこれはぜひ言っておきたいということはあるか。それぞれの分野でいろいろご意見があると思うが…。

(特になかったので) 最後に市民ワークショップ、資料5についてお願いします。

7 まちづくり市民ワークショップ開催の報告

＜事務局資料説明＞

・資料5 まちづくり市民ワークショップ開催の報告

【会長】 市民ワークショップにつきまして何かご質問は。3回開催されるということだが。

【委員】 締め切りが8月20日になっているが、応募者はあったのか。

【事務局】 5人の方から公募があった。

8 副市長あいさつ

【副市長】 委員の皆様方には本日大変長時間にわたりましてご審議をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の審議案件といたしましては、都市像をはじめさまざまな議題についてご審議をいただきました。また各分野からの貴重なご意見を賜りました。誠にありがとうございました。

次回、ただいま申し上げましたように、11月に開催をいたします。それまでの間にワークショップも開催をいたします。皆様方からいただきました意見、そしてまたワークショップを通じまして市民の方々からもご意見を伺い、よりよい計画づくりを進めていきたいと思っております。

今後とも皆様方には大変お忙しい中お世話になりますが、ひとつよろしくお願い申し上げまして、簡単ではございますが、閉会のごあいさつとさせていただきます。本日はありがとうございました。

9 閉会